

シジュウカラやフクロウは、オス（父親）も積極的に子育てに参加します。と言うよりも、オスがいないと雛たちは無事に巣立ちを迎えることはできないのです。ところが、ムササビのオス（父親）は、まったく子育てに参加しません。少なくとも私が観察している約1か月の間に、オスの姿は一度も見ませんでした。

ところが、数日前に「事件」が起きました。夕暮れ後に、森にフクロウのオスが現れたのです。私はたまたま山荘にいたのですが、「ホッホー、ゴロスケホッホー」という鳴き声が、すぐそばで聞こえていました。フクロウは早春に子育てをするので、営巣場所を探しに来たのではないようです。フクロウはムササビにとっては天敵で、子が小さいうちは餌食になることもあります。この時メス（母親）は、巣箱の中で子の上に覆いかぶさって、死んだようにじっとしていました。

ところがもう一匹、巣箱上にムササビが現れたのです。オス（父親）に違いありません。餌を運んできたのではなく、オスは巣箱や幹を、尾をぐるぐる回しす行動を繰り返していました。「おい、フクロウの野郎が来てるぞ！行っちゃうまでじっとしてろ！」という警戒の合図なのでしょう。フクロウの声が聞こえなくなって警戒解除するまで、10分以上かかりました。その間、巣箱内のメスも子も、まるではく製のようにじっとしていました。子育てに関しては何もしていないと思っていたオスも、ちゃんとメスや子を守る役割を担っていたのだと、見直しました。

(2024年4月30日／北軽井沢)

